

対馬博物館

厳原にある対馬博物館は、縄文時代から現代に至るまでの対馬の歴史を概観することができる博物館である。特に対馬とアジア大陸との交流の過程と結果に焦点を当て、古代の交易、紛争と和解、江戸時代（1603-1867）の日韓外交などをテーマにしている。

平常展は、17 世紀末の対馬の地図を中心とした簡潔な導入部分から始まる。続いて、「古代」の展示室がある。特徴的な展示ケースのおかげで、土器片、鏃、斧、装飾用ガラス玉などの遺物を四方から観察することができる。また、1～2 世紀の祭祀に用いられたとされる青銅製の「鉾」など、実際に手に触れることができる複製品もある。

「中世」と「近世」の部屋では、14 世紀から 1867 年までの遺物や出来事が紹介されている。対馬の貿易商が入手した朝鮮陶磁器、対馬の商業関係を記した文書、対馬の大名であった宗家が偽造した公印や書簡などが展示されている。偽造品は 1600 年代初頭、徳川幕府と朝鮮王朝の通商・外交関係を復活させるために作られたものである。

博物館棟の 2 階には、長崎県対馬歴史研究センターがある。同センターは、「記録魔」として知られた宗家の公文書の保存、修復、調査研究を行っている。江戸時代全般にわたる約 8 万点の資料の中には、藩の書役たちが対馬の出来事を日記風に記録した「毎日記」も含まれており、対馬の数世紀にわたる生活を知る手がかりとなっている。